

小中一貫教育推進協議会 プロジェクト会議

まとめ

第1回プロジェクト会議

8月29日（金）with ラーニングコーディネーター

テーマ：「学力向上」「生徒指導」

第2回プロジェクト会議

10月7日（火）with CSコーディネーター

テーマ：「地域・学校・家庭連携」

① 校内

① 小学校低学年の
体制を手厚くする
(基礎学力定着化)

① 授業改善の
方向性を共有
(研究主題の明確化)

① 校内組織の見直し、
学力充実と関係
部を明確化設立

② 学校内 直撃

① 下支えする
自習室、自習用具
を下支え実施する
学年連携

① 授業改善
校内研究授業の重複化を減らす

① 研究授業の
機会均等化
同じ者にばかりやさない

ICT 教育の推進
マンパク→元気

学校間を行き来できる
人材

② 学校内 直撃

② 教育的支援
小中一貫化の実現
(年齢化)

② 小中一致の
人材育成へ
下支え

(働き方改革と
集まるところの
分野)

分散中学(進路)の解消

小中一貫教育

・相互理解

・合同研 研究テーマで学力を高めるために

・小学校への授業参観(比如風に)→中学校の
授業改善

・部活動体験、合唱コン

・学力分析 ハーサル(参加)

・④ 共通のガイド
④ 中学生に小学校への読み物かせ

学校

家庭

授業改善

① ICT ⇒ ミニ研修
活用事例

② 回答 記述問題

→ 読書 ⇒ 朝読書(分)

③ なぜ大事?
→ へたおもいと思う、
おもひが
→ おもひが
想像力
想像力が広がる

→ 本のプレゼン
→ 位体購入
→ すき向の時間(1分)

→ 読み直せ
→ ポップカード

→ 本を読みきり
→ 本を読みきり

→ 読む力
→ 読む力 = 書く力

→ 振り返りを書く
④ 国単元ごと
④ 時間ごと

→ 知的好奇心を高める

保護者に学校に
意識を高めて
意図を高めて

学年交代
(宿題者説)

懇談会

共通理解方話
(保護者)

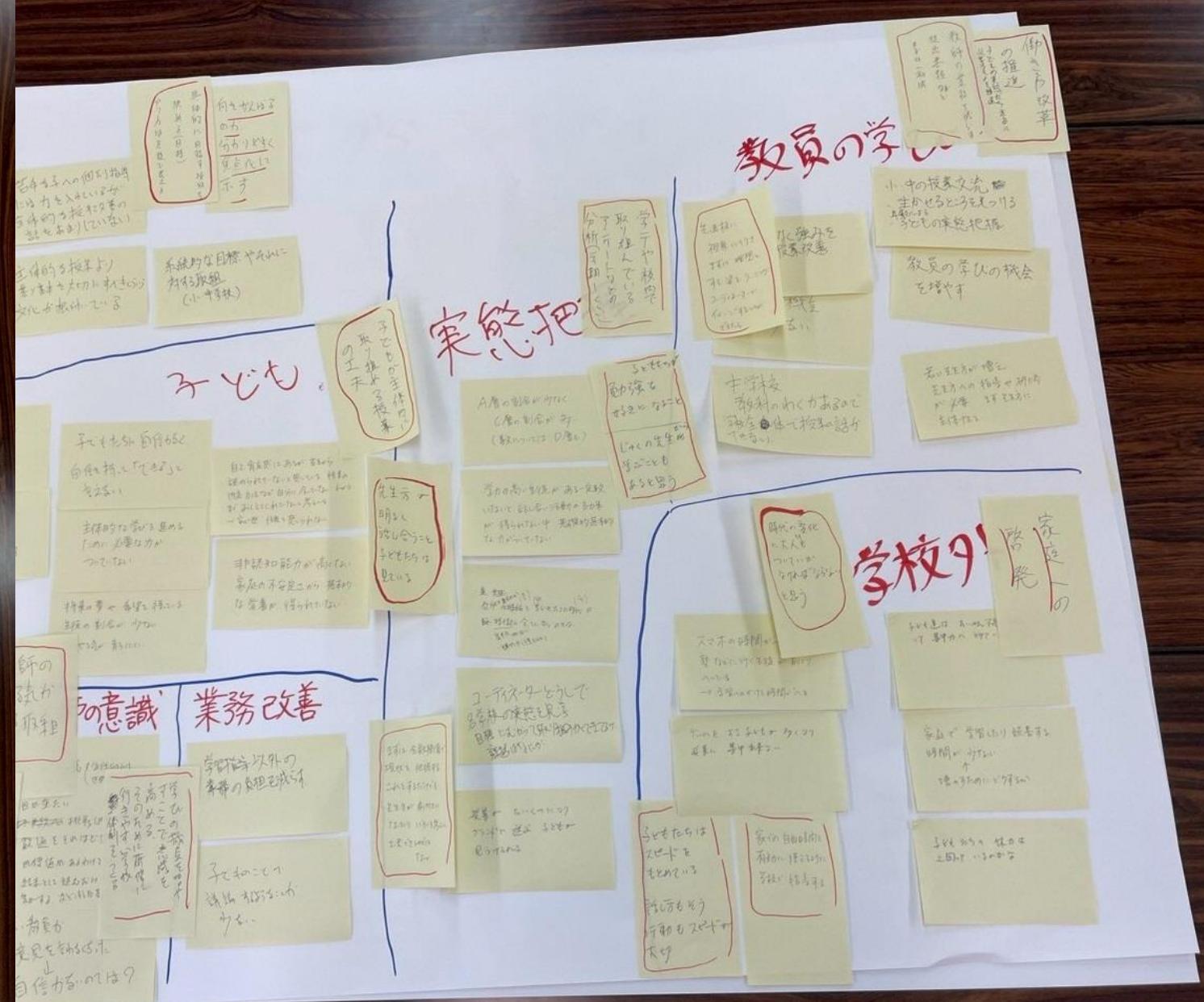
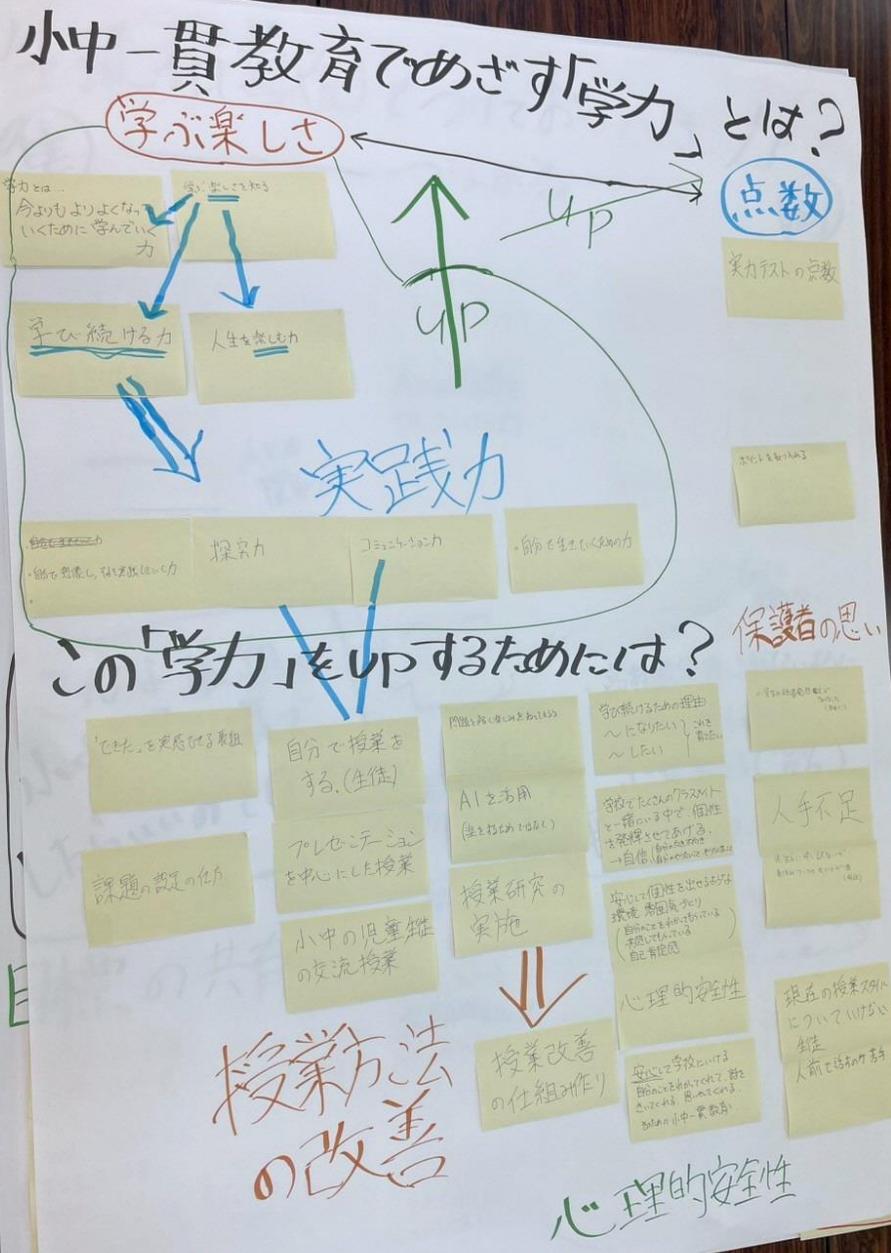
④ 読書大事 → 読書が
IPad 持ち帰る

ドリルアブリ → 保護者

家庭学習の手引き

→ 時間ごと
△ 活用課題、周知

△ 時間(学年ごと)
△ 内容は発達段階



学力向上対策

【主体性・課題解決型の学習】

- ・基礎基本の積み上げの上に、子どもが主体的に取り組める授業改善
- ・「できた」を実感できる、知的好奇心を高める授業や取組づくり
- ・探究心・学び続ける力・自分を理解する力・自分を表現する力の育成
- ・課題設定の仕方の工夫
- ・問題を解く楽しみを知る学習機会の設定

【実態把握・ビジョンの共有】

- ・小中共通の課題分析、各種テストやアンケートをもとにした学力分析
- ・学びの連続性を中学校ブロックで共有

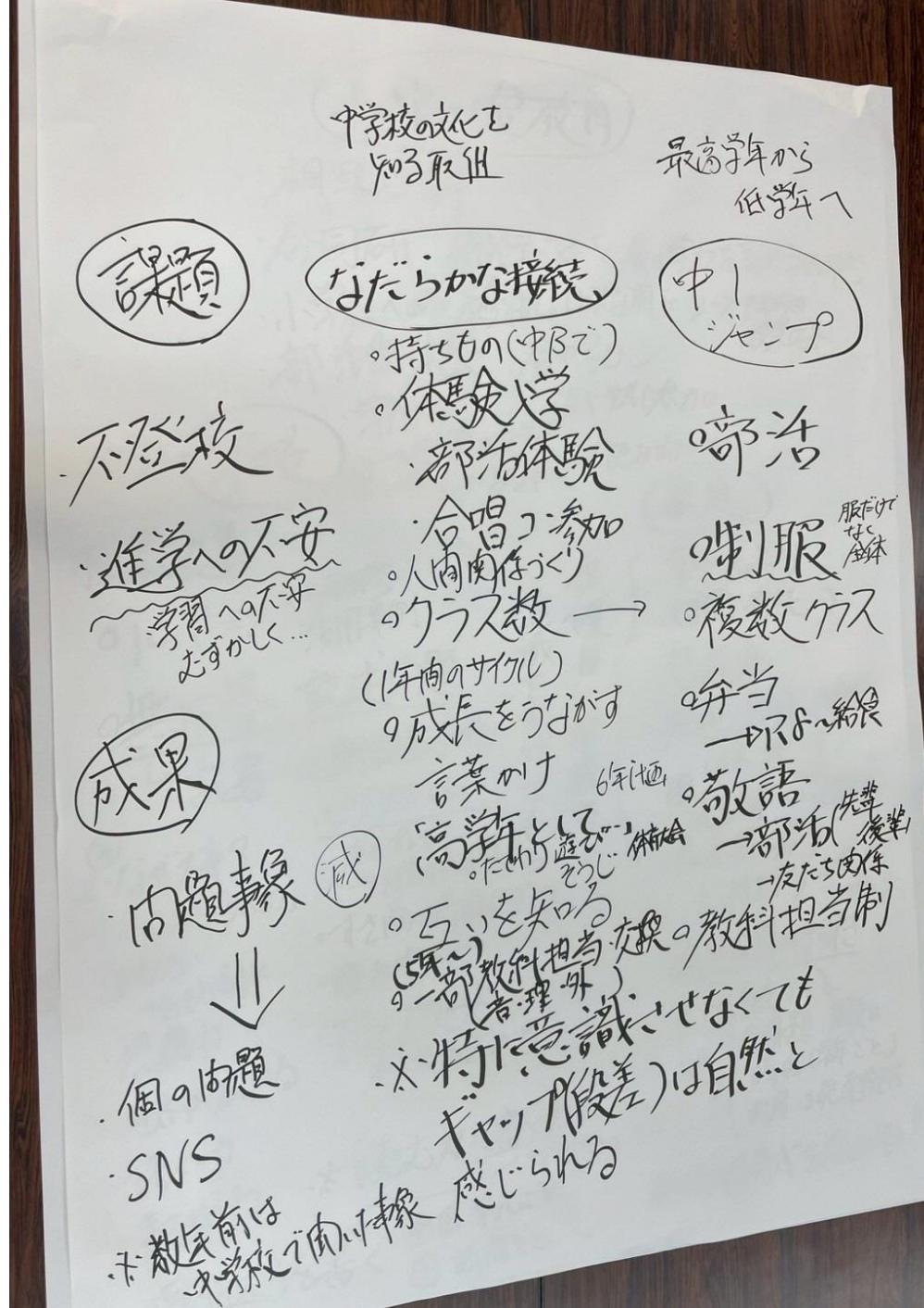
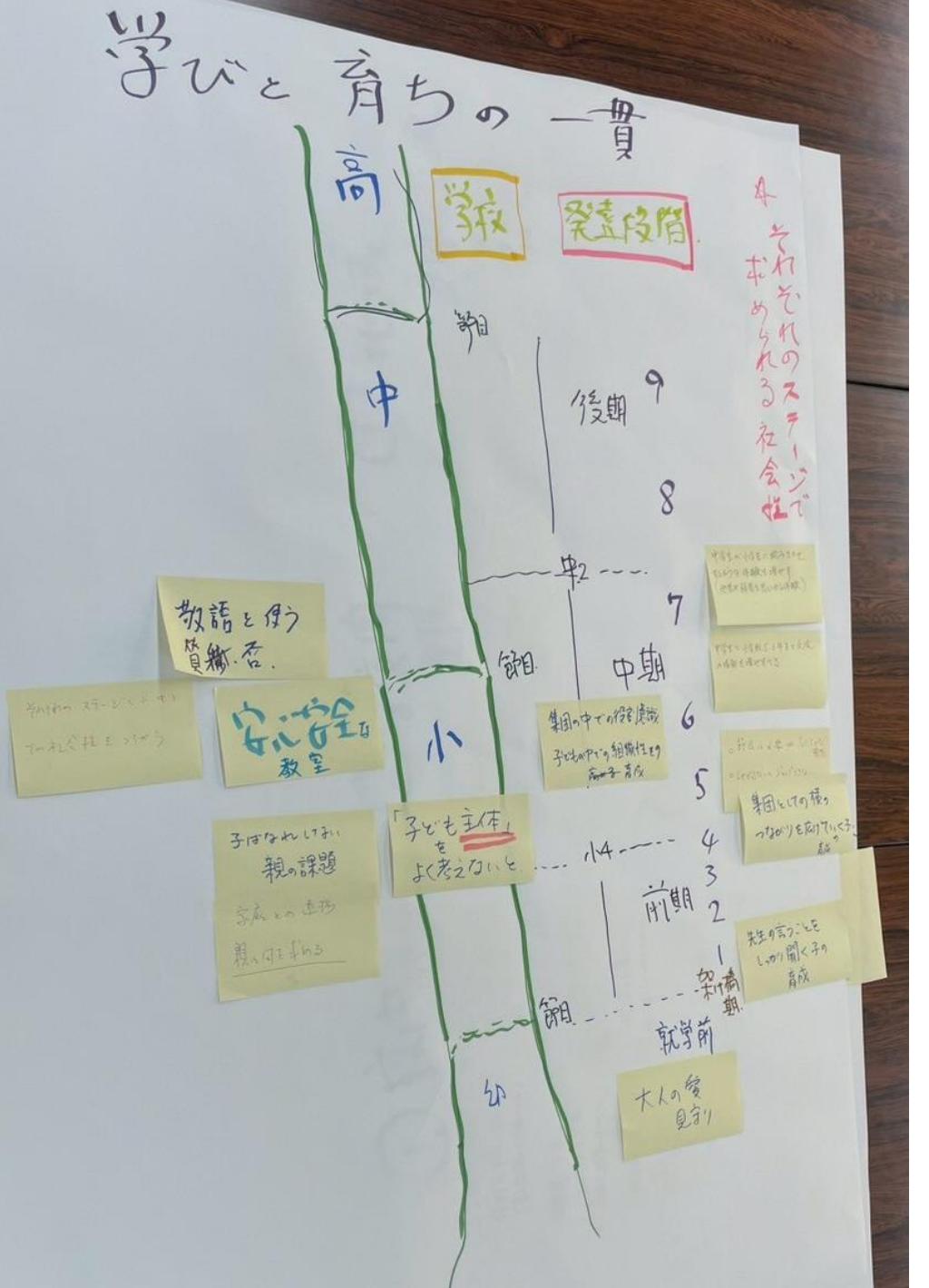
学力向上対策

【実践事例の交流・ラーニングCoの活用】

- ・校内及び中学校ブロックでの授業研究の実施、研究主題の明確化
- ・ラーニングコーディネーターの学びの機会の拡充（視察・研修等）

【保幼小連携】

- ・幼少期の育ちを小中学校の学びに繋げる視点の共有



生徒指導面でつけておくべき力

集

つながる

個

新しい環境への適応力

新しい環境への適応力

ソーシャルスキル

集団の中で生きいく力

つながる力

人との関係とXでいく力

空気読み力

コミュニケーション力

人の気持ち
理解力

自己理解力

自分で考える

自分で判断力

問題解決力

問題解決力

自己表現力

自分を出す力

人との
関係力

自己肯定感向上
自己肯定感

こんな取組を
小中一貫教育で
してもらいたいのでは?

下の筋

バランス

ギャップ

高校進学後はないように

社会に出る時に

力を育てる(学習)

ギャップを埋める力

目標

達成

目標

生徒指導

【児童生徒の実態把握】

- ・成長を促す言葉かけの重要性
- ・子どもを認めて褒めることや、個性を發揮する場面を設定するなど自己肯定感を高める支援
- ・子どもがどんな状態にあるかを纖細に感じとれる教員の感性

生徒指導

【節目として位置づけられる取組】

- ・環境が変化することへの肯定的な意味づけ
- ・節目の重要性を意識した取組
- ・不安をチャンスと捉え、前向きに捉えられる力
- ・小学生が中学生に「憧れを持つ」取組づくり
- ・進学への不安を解消する取組づくり（心理的安全性）

生徒指導

【節目として位置づけられる取組】

- ・中1、高1ギャップを乗り越えるための仲間づくり
- ・高学年としての意識づくり（縦割り遊び・掃除・運動会）
- ・部活動における先輩・後輩の関係性の意義（あいさつ・敬語）
- ・制服着用等による意識の変化の意義
- ・それぞれのステージで社会性を培う取組づくり（ソーシャルスキル）

生徒指導

【保幼小連携】

- ・ 幼児期からの遊びを通した人間形成の重視
- ・ 就学前の周囲からの愛情・見守りにより培われた基礎に基づく、基本的な学習規律の形成

1. 学校の安全安心・教育課程が
最優先！

2. 各分野・団体における持続可能な
取り組みが重要 (PTA, CS, etc)
“集い・役立つ・やめやめ”活動…

3. 情報発信の工夫・継続
・回覧板・SNS…

4. 学校内に地域が使える・集える
場所(部屋)があると良い
(管理上の課題…)

地域倫理 2 人権の
関心事項 平和の為に
PTA
人権 2 地域人権と地域人
権の為に → PTA実現へ

解 今ま清貧生活の中では
(HP 1-2)
→ 重い中毒は1人で見つけ
→ 駆けつけたところ!

卷之二
八

言
りいわれなく
理角解の問題
はこれが入る
小中
方
(中等)

子どもが卒業してから情報発信
情報があまり届かなくなったり
おはなしの活動や発表があまりない
できることはないよとつくづく思っている

△学校の負担にならない
地域行事の実施

PTAと連携
CS活動
小中連携も
広げていません

地域の小中学生が
自分たちの地域を
好きになれるが。

楽しい企画
興味をひく企画>好きな人が
中学生の居場所
新たに取り組む
卒業して…

「個人」として地域活動
に参加したいという人も
いるかも(イベント的に)
参加

提案
在籍生徒の祖父母大
きなアプローチを強化して
もらうか卒業していき

△PTAのあり方

委員会
育成会(PTA)がひとつの中核に
統合していく。小学校・中学校の
保護者情報共有がなされている

小学校のお祭りに
中学生がお店。
(地域ボランティアも盛り)

子どもがスパレーヤクリーン運動
では児童生徒の交流はしっかり
地域から参加せよと見られる

①
CSの方が学校と地域
をつなげてくださる取組
・職業講話
・思い出品会

コミュニティースクールの取組で地域の
人々が授業のサポートに入り形態が
定着してきました

小学校の先生の訪問
中学校の先生の小学校

親にとて(もとより)
上の人が入学するの
不思議

牛丼体験、新入生
部活動体験
授業体験

SNSを利用して
周知させる

学校発信のメルマガ
登録者を募集

休み時間(中間登)
地域の方に会った
たま子供たちの様子
を見たい先生へ

△次の世代に
つながる

感動する
経験↑(体験)

子を中心
でつなぐ

△つなぐ
セミナーや会議
担任会議

主体的で最もわかる
→ おもしろい
無理では

△地域活性化
地域の活動山
地域の課題(課題)

親友と子供たち
が集まる会
団体や組織で
つながる

SNSでの
情報発信

△持続可能な
PTA活動
のための
組織化

△単年活動(PTA)
議題

持続可能な取組のため
CSコーディネーター
ラーニングコーディネーターを
養成するという視点
予算的、人事的措置

家庭・学校・地域連携

【CSコーディネーター】

- ・小中CSコーディネーターの連携強化・交流機会の拡充
- ・小中CSコーディネーターの一本化

【保護者や地域の主体的な参画】

- ・気軽な参観や行事参加からの取組づくり（祖父母・卒業生）
- ・今ある行事の精選と持続可能で気軽にできる取組の企画
- ・強制されない、自ら参加できる取組の企画

家庭・学校・地域連携

【Win-Win】

- ・学校内に地域が使える、集える場所の設定
- ・地域の方（人生の先輩）から多様なことを学ぶ機会の設定
- ・児童生徒が気軽に参加できる地域イベントの充実

【情報発信ツール】

- ・地域・家庭への情報発信や啓発の取組（SNS・回覧板・HP・メルマガ・アプリ活用）
- ・施設分離型でも小中一貫教育の取組が推進されていることがわかるような情報発信

家庭・学校・地域連携

【一体的な教育環境】

- ・地域の方やPTA・構成団体等と連携した「あいさつ運動」「クリーン運動」「地域懇談会」等の活動づくり
- ・「中1ギャップ」の段差を乗り越える方法を、子ども・保護者・学校とともに考える機会の設定
- ・斬新なアイデアやクリエイティブな発想を生かした宇治市への提言づくり